

科目名	資格対策講座 2							年度	2025	
英語科目名	Qualification Preparations Lecture 2							学期	後期	
学科・学年	電子・電気科 電気工学コース 1年次		必／選	選 1	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	長澤 正明		教員の実務経験		有	実務経験の職種		電気主任技術者		
【科目の目的】										
冷暖房機器などに利用されているボイラーについて性質・用途・取扱い方法を学び、2級ボイラー技士の国家資格を取得する事を目的とする。										
【科目の概要】										
この科目を受講する学生は、ボイラー技士が工場やビルなどの空調や温水の供給に欠かせない設備であり、多くの設備で活用されていることを理解し、高温で稼働するボイラーの正しい取扱方法や法令についての知識を身に付けます。さらにボイラーの運用・管理といった基本的なことだけでなく、定期的なメンテナンスや点検についても理解しなければならない。ボイラー技士にはボイラー全般に携わり、その状態を常に確認・修正できるだけの十分な技能が求められる。										
【到達目標】										
A. 資格試験結果 B. 資格試験への取り組み C. 資格の有用性・将来性の理解										
【授業の注意点】										
電気技術者として仕事をしていく上で必要となる資格の取得を目標として、授業を通じて資格の必要性を学生自身が十分に認識して自主的に資格取得を目指すように授業を進める。キャリア形成の観点から、授業中の私語や授業態度などについては厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時間の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができないので注意すること。尚、オンライン授業であっても同じ条件となる。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A	資格試験を受験し合格した		資格試験を受験したが不合格だった		資格試験を受験していない					
到達目標 B	十分対策した上で資格試験を受験した		対策が不十分で資格試験を受験した		まったく対策せずに資格試験を受験した若しくは未受験					
到達目標 C	当該資格の業界での有用性を理解している		当該資格の業界での有用性の理解が不足している		当該資格の業界での有用性をまったく理解していない					
到達目標 D										
到達目標 E										
【教科書】										
2級ボイラー技士教本・新版ボイラー図鑑・わかりやすいボイラー及び圧力容器安全規則/日本ボイラ協会										
【参考資料】										
【成績の評価方法・評価基準】										
試験：70％試験を総合的に評価する。小テスト：15％授業内容の理解度を確認するために実施する。 平常点：15％積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

